

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	97人	算数	97人	理科	98人
第5学年	国語	98人	算数	98人	理科	99人

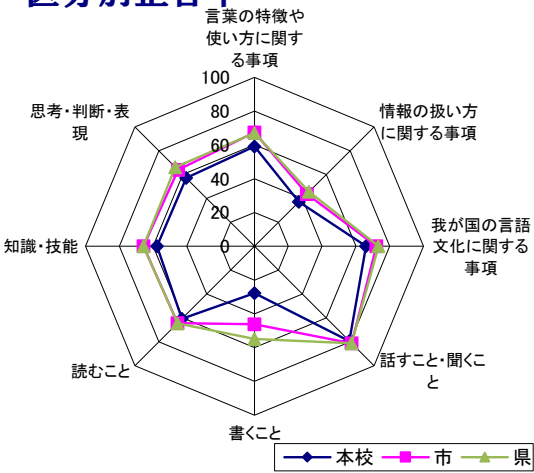
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	59.1	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	37.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	66.0	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	79.4	81.2	81.2
	書くこと	27.8	46.2	54.9
観点	読むこと	60.8	64.3	64.5
	知識・技能	57.7	65.7	65.7
	思考・判断・表現	57.2	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

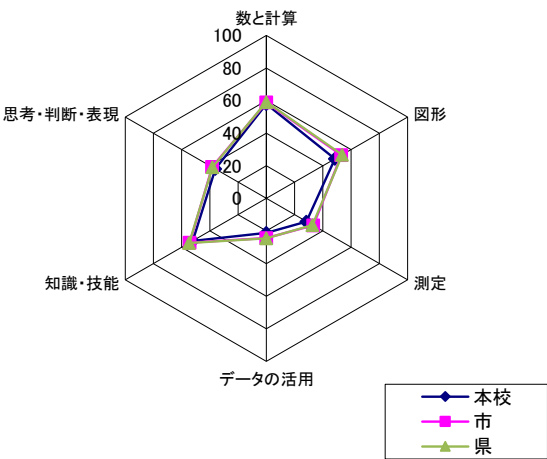
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は、59.1%と県、市の正答率より低い。 ●「第3学年に配当されている漢字を正しく書くことができる」問題は45.4%で市の正答率を11.4ポイント下回っている。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読むことができる」問題は45.4%で市の正答率を11.5ポイント下回っている。	・漢字練習と小テストを繰り返し行うとともに、朝の学習等を利用して既習漢字を使った文を書かせるなどし、定着を図る。またAIドリルを効果的に活用する。 ・授業の配当時間のほかにも、プリントやタイピング、ローマ字表を掲示するなどして、ローマ字に慣れ親しむようにする。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は、37.1%と県、市の正答率より低い。 ●「国語辞典の使い方を理解し、使うことができる」問題は37.1%で市の正答率を6.7ポイント下回っている。	・わからない言葉があった際、教科にかかわらずすぐに国語辞典をひくことのできる環境を整え、国語辞典の使い方をより一層身に付けさせていく。
我が国の言語文化にに関する事項	・領域の正答率は、66.0%と県、市の正答率より低い。 ●「漢字のへんやつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつくることのできる」問題は66.0%で市の正答率を6.1ポイント下回っている。	・新出漢字を学習する際に、へんやつくりと意味を結び付けて覚えられように指導し、定着を図っていく。また、漢字辞典の学習において、部首索引を使う活動を通し、部首への興味・関心をもたせていく。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、79.4%と県、市の正答率より低い。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができる」問題は76.3%で市の正答率を5ポイント下回っている。	・授業において意見を出す際には、自分の考えが相手に伝わるよう理由を挙げて発言させるようにする。またその際、自信をもって発言できるよう、発表の仕方の型を示しておく。
書くこと	・領域の正答率は、27.8%と県、市の正答率と比べてかなり低い。 ●「自分の考えを明確にして文章を書くことができる」問題は30.9%で市の正答率を20.2ポイント下回っている。 ●4つの条件を満たして「書くこと」の問題では、34.0%の児童が無解答である。	・授業での振り返りや自分の考えを書く際には、ひな形を提示し、定型文を基にして書く練習を行い、段階を追って文章を書く力を身に付けられるようにする。 ・すべての問題に解答できるように、時間配分を考えた問題の取り組み方を指導していく。
読むこと	・領域の正答率は、60.8%と県、市の正答率と同程度である。 ●「叙述を基に指示語の内容を捉えることができる」問題は54.6%で市の正答率を9.3ポイント下回っている。	・普段の授業から、指示語の内容を捉えることができるような問いかけを行い、何を指しているのか意識させていく。 ・読書活動を充実させ、登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える機会を増やす。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.9	58.9	59.2
	図形	48.5	53.0	53.7
	測定	28.4	33.1	32.6
	データの活用	21.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.2	54.3	54.7
	思考・判断・表現	36.1	38.5	38.3



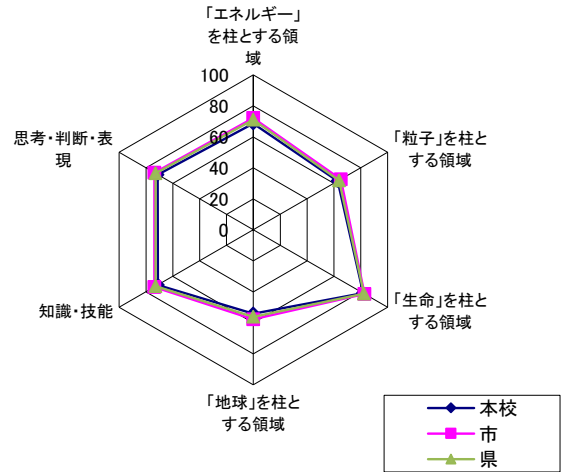
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、57.9%と県、市の正答率と同程度である。 ○「大きな数の表し方について正しいものを選ぶ」問題では、50.5%で市の正答率を5.4ポイント上回っている。 ●「□を使った掛け算の式に合った文章を選ぶ」問題では、30.9%で市の正答率を9.4ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で、文章を読んで立式するときに必要なキーワードを確認し、何算を使うか自分で判断できる力を養っていく。また、自分自身で文章問題をつくる活動を取り入れ、定着度を高めていく。
図形	・領域の正答率は、48.5%と県、市の正答率と同程度である。 ●「円の性質を利用して正三角形を作図する」問題では、26.8%で市の正答率を12.1ポイント下回っている。また、無解答も多かった。	・図形の性質をもう一度確認したうえで、作図の経験を増やし、図形感覚を養っていく。
測定	・領域の正答率は、28.4%と県、市の正答率と同程度である。 ●「重さが同じになる組み合わせとして正しいものを選ぶ」問題では、18.6%で市の正答率を7.7ポイント下回っている。また、無解答も多かった。	・単位換算やかけ算など、問題を解くのに必要な基礎的な知識を復習し、定着を図る。
データの活用	・領域の正答率は、21.1%と県、市の正答率と同程度である。 ●「棒グラフを読み取り、2番目に多い落とし物の種類を答える」問題では、38.1%で市の正答率を9.7ポイント下回っている。その他の問題も、正答率が40%を下回っており、全体的に正答率が低かった。また、無解答も多かった。	・数学的活動を通して、表とグラフの関係についての理解を深める指導を続けていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	68.6	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	62.8	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	81.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	54.1	57.7	56.2
観点	知識・技能	71.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	71.3	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・領域の正答率は、68.6%と県、市の正答率と同程度である。 ●「音の大小とふるえ方の違いについて理解しているか」の問題では、65.3%と市よりも6.7ポイント低い結果であった。 ●「日光を集めた時の明るさとあたたかさについて理解しているか」の問題では、46.9%と低い結果となっている。	・学習過程の中で、計画と予想を大切に授業づくりを行い、児童一人一人が実験内容をしっかりと把握できるようにしていく。 ・結果から分かることを自分の言葉で文章に書いたり、表現したりする場を積極的に設ける。
「粒子」を柱とする領域	・領域の正答率は、62.8%と県、市の正答率と同程度である。 ●同じ体積でも、ものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考える記述問題では、36.7%で、市の正答率を5.6ポイント下回っている。無解答も10.2%と低い結果であった。	・実験の時に、体験的な活動を多くし、結果や考察を話し合いをもとにして自分の言葉でまとめられるようにさせる。
「生命」を柱とする領域	・領域の正答率は、81.8%と県、市の正答率と同程度である。 ○「昆虫のすみかについて理解しているか」の問題では、93.9%と正答率が高い。 ●「植物の芽生えについて理解しているか」の記述問題では、78.6%と市の正答率より5.2ポイント低い結果であった。 ●「植物の一生について差異点や共通点を見出すことができるか」の問題では、80.6%と市を6.1ポイント下	・結果をもとに比べながら、違いを見つけられるような授業展開や場面を設けたりする。 ・基本的な用語については、繰り返し指導し、結果や考察の中で積極的に使えるよう声を掛けていく。
「地球」を柱とする領域	・領域の正答率は、54.1%と県、市の正答率と同程度である。 ●太陽が動く方位を理解しているかの問題では、48.0%と市を7.1ポイント下回っている。	・めあてや実験の目的を明確にし、体験的な活動を通して得られた結果をもとに、実生活に即した考察をできるようにしていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答の児童の割合は、83.0%で市平均より10.5ポイント高い。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答の割合は、85.0%で市平均より10.8ポイント高く、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的回答も80%と市平均より16.3ポイントも高い。児童が意欲的に学習に取り組む、家庭学習にもよく取り組む様子がうかがえる。意欲が学習内容の定着に結びつくように、取り組み方や家庭学習の例示などを行っていきたい。

○「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定的回答が68%と市平均を10.9ポイント上回り、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答も89%と市平均を11.9ポイント上回る。授業中、児童が課題に前向きに取り組む、効果的に話し合いを進めている様子がうかがえるが、さらに自分の考えに自信をもち、自分の考えや意見を発表できるようにしていきたい。

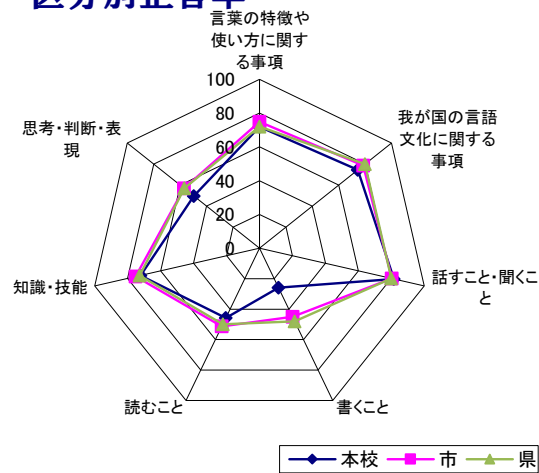
○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答は89%と市平均より11.5ポイント高い。これからも引き続き適切なタイミングで助言したり、個に応じた指導を考えたりと学習の支援をしていきたい。

●平日のテレビやDVD、動画などの視聴時間についての質問では、4時間以上と回答した児童の割合が22.0%、3時間以上と回答した児童の割合は16.0%と、市平均より高い傾向が見られる。テレビや動画の視聴については、家庭でのルールづくりを勧めたり、読書を奨励したりと働きかけていきたい。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.9	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	74.5	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	81.6	80.4	80.0
	書くこと	25.8	45.1	48.0
	読むこと	45.8	51.3	50.0
観点	知識・技能	72.2	75.2	72.8
	思考・判断・表現	49.7	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

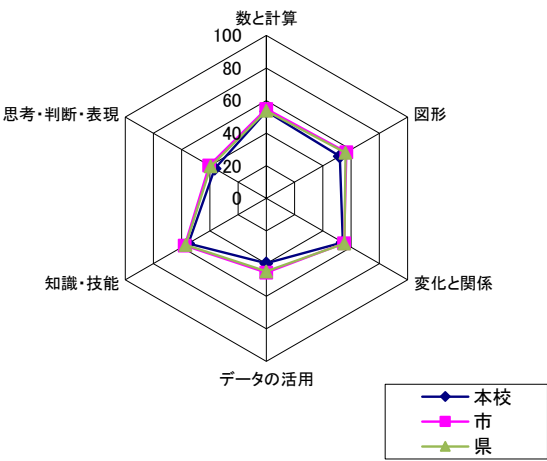
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は、71.9%と県、市の正答率と同程度である。 ○「第4学年に配当されている漢字を正しく読むことができる」「文を読み、様子を表す語として適する語を選ぶ」の校内正答率は市の正答率と同程度である。 ●「連体修飾語について理解している」問題は、70.4%で市の正答率を6.6ポイント下回っている。	・漢字練習と小テストを繰り返し行うとともに、朝の学習等を利用して既習漢字を使った文を書かせるなどし、定着を図る。 ・文章の構成を確認したり、主語・述語・修飾語を意識して文章を書いたりすることを繰り返し行い、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	・領域の正答率は、74.5%と県、市の正答率と同程度である。 ●「慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができる」問題は、74.5%で市の正答率と同程度である。	・物語文や説明文などで、慣用句やことわざが載っていた場合、国語辞典やことわざ辞典を用いて意味を調べることで、慣用句やことわざに慣れ親しむようにする。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は、81.6%と県、市の正答率と同程度である。 ○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができる」問題は、90.8%でよくできている。	・今後も、意見を述べる際には、意見を先に、理由や説明を後にするなどの工夫を意識して、話したり聞いたりするよう指導していく。
書くこと	・領域の正答率は、25.8%と県、市の正答率と比べてかなり低い。 ●「読み取ったことを基に、指定された長さや2段落構成という条件に合わせて、事実と自分の考えを分けて書く」問題は、正答率が20%台で、市と比べて20ポイント下回っている。また、無解答率が34.7%と、市と比べて13ポイント高い。	・委員会や係活動などで、アンケート結果などを読み取ったことをもとに、指定された長さや2段落構成という条件に合わせて、自分の考えを書く機会を設ける。 ・朝の学習や授業などで、行事のふり返りや自分の考えを100字程度で書く機会を設ける。 ・毎時間の授業のふり返りにおいて、ふり返る観点を多く示し、さまざまな視点から自分の考えを書けるよう指導していく。
読むこと	・領域の正答率は、45.8%と県、市の正答率と比べて低い。 ●「叙述を基に文章の内容を捉えることができる」問題は、28.6%で市の正答率を16.2ポイント下回っている。	・説明文や物語文の単元では、要約したり心情の変化を捉えたりできるように、叙述に沿って内容を丁寧に読みとれるよう指導していく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.4	54.9	53.7
	図形	51.9	56.6	56.1
	変化と関係	54.1	55.1	55.2
	データの活用	39.8	45.5	44.8
観点	知識・技能	55.3	57.8	57.2
	思考・判断・表現	36.7	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

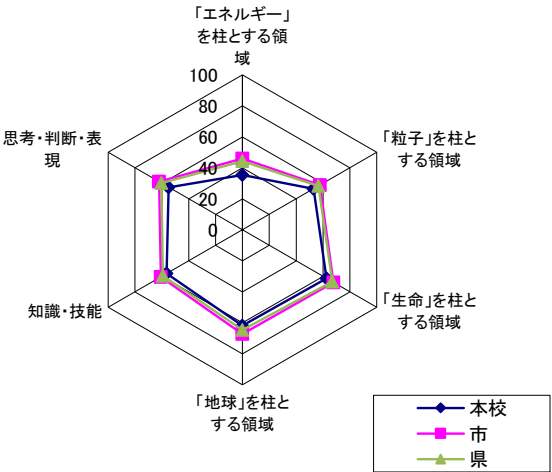
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、53.4%と県、市の正答率と同程度である。 ○「3けた÷2けた＝2けた(余りあり)の計算をする」の問題では、73.5%で市の正答率を11ポイント上回っている。 ●「数直上線の見盛りを仮分数で表す」問題では、43.9%と市の正答率を11.9ポイント下回っている。	・数列的な考えを高めるために、小数や分数を数直線上で表す活動や数の大きさを表す活動を増やす。 ・計算の工夫について説明する力を高めるために、キーワードを与えながら順序立てて説明する活動を練習する。
図形	・領域の正答率は、51.9%と市の正答率を4.7ポイント下回っている。 ●「180度より大きい角の大きさを求める」問題では、32.7%で市の正答率より15.4ポイント下回っている。 ●「平行四辺形の作図」の問題では、31.6%で市の正答率を10.3ポイント下回っている。	・関連事項を学習する際に図形の定義や性質を再確認するとともに、道具に触れる時間を増やし、道具の扱いに慣れさせる。 ・図形をかくときに多様な方法を取り入れて、作図することができるよう指導していく。
変化と関係	・領域の正答率は、54.1%で県、市の正答率と同程度である。 ○「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す」の問題では、50.0%と市の正答率を8.6ポイント上回っている。 ●「割合を使った比べ方について説明する」の問題では、25.5%と市の正答率を5.8ポイント下回っている。	・授業の中で「理由を説明する」「文章で説明する、書く」活動を積極的に取り入れていくことで、求められている答えを説明できる力を養っていく。 ・基本的な割合の考えを高めるために、朝の学習等を利用して指導していく。
データの活用	・領域の正答率は、39.8%と県、市の正答率よりも低い。 ●「表からわかることとして正しいものを選ぶ」の問題では、34.7%で市の正答率を12.4ポイント下回っている。 ●「グラフから読み取れることとして正しいものを選ぶ」の問題では、38.8%と市の正答率を7.2ポイント下回っている。	・算数の時間以外にも表やグラフを読み取る学習を取り入れていく。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを発表したり、記述式で答えたりする場をつくり、多面的な考え方を知る機会を設定していく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	35.4	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	52.9	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	62.6	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	61.8	67.2	64.6
観点	知識・技能	56.5	60.8	59.2
	思考・判断・表現	54.9	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・領域の正答率は、35.4%と市の正答率より約11ポイント低い。 ●簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える問題では、正答率は15.2%で市を16.1ポイント下回っている。 ●電流が同じ大きさの回路を選ぶ問題では、正答率は35.4%で、市を11ポイント下回っている。	・どのような条件でどのような結果が得られるのか想像する力を高めるために、実験の予想をしっかりと行い、それをもとに実験を計画し行う授業展開をしていく。
「粒子」を柱とする領域	・領域の正答率は、52.9%と市の正答率より約5ポイント低い。 ○水鉄砲から水が出る理由を答える問題では、正答率は63.6%で市と同程度である。 ●エアコンで部屋全体の空気をあたためる方法を答える問題では、正答率は60.6%で市を13.7ポイント下回っている。	・実験で学んだ知識と身近な事象や自然現象とを関連づけて考える機会を増やし、学んだことを活用する力を高めていく。
「生命」を柱とする領域	・領域の正答率は、62.6%と市の正答率より約5ポイント低い。 ○季節の順に並べたイチョウの記録を選ぶ問題では、正答率は40.4%と市と同程度である。 ○湯気について選ぶ問題では、42.4%と市の正答率を10ポイント上回っている。 ●腕を伸ばした時の筋肉の様子を答える問題では、正答率は53.5%で市を10.2ポイント下回っている。	・予想を大切に授業展開をするとともに、体験的な活動を通してしっかりと理論を考えられるようにする。
「地球」を柱とする領域	・領域の正答率は、61.8%と市の正答率より約5ポイント低い。 ○排水口が低くなっている問題では、正答率は91.9%と市と同程度である。 ●雨の日の気温の変化の様子を選び選んだ理由を答える問題では、正答率は50.4%で市を14.1ポイント下回っている。 ●オリオン座の動きと並び方を選ぶ問題では、50.5%と市を14.1ポイント下回っている。	・授業の中でイラストや表などの資料を的確に捉えて、なぜそうなるかなど考え、文章で書いたり友達と伝えあったりする機会を増やす。

宇都宮市立豊郷南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」と肯定的に答えた児童の割合は67.4%で、市と比べて9.6ポイント高い。児童は、辞書を積極的に活用し、自分で調べたこと、興味をもったことなどを意欲的に調べることができる。

○「社会科の学習は好きですか。」の質問に対して肯定的に答えた児童の割合は80.2%で、市と比べて20.3ポイント高い。一人一台端末でデジタルノートを活用したことで、児童は、社会科に対しての興味・関心が高まり、授業中も意欲的に取り組んでいる。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と肯定的に答えた児童の割合は84.1%で、市と比べて5.4ポイント高い。また、「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めていると思う。」と肯定的に答えた児童の割合は94.1%で、市と比べて6.1ポイント高い。学級の問題点や、やりたいことを児童が主体的に自分のことと思って話し合うことができている。今後も各教科において、児童が積極的に話し合う場を設けていきたい。

●「算数の学習は好きですか。」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は53.4%で、市と比べて10.9ポイント低い。また、「算数の授業の内容はよくわかりますか。」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は76.2%で市と比べて10.8ポイント低い。今後はICTを活用するなど、教材・教具を工夫したり、楽しい授業になるよう授業内容・展開を工夫したりするなど、児童が授業を好きになれるよう指導していきたい。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う。」の質問に対して、肯定的に答えた児童の割合は50.5%で、市と比べて9.9ポイント低い。グループでの話し合いを多く取り入れることで、自分の考えに自信をもてるようにし、友達の前で自分の考えや意見を発表することに自信をもたせたい。また、学習の中で達成感や自己肯定感を高めることができるように声をかけたり、スモールステップで取り組ませたりしていきたい。

宇都宮市立豊郷南小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的な学習を通して、表現力を高める国語科指導に取り組む。 ・特に、自分の考えをもち、書く力を高める。	・読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書く。 ・相手の考えと自分の考えを比べながら聞く。 ・自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめる。	・国語「書くこと」の領域において、市の平均と比べ、4年生で18.4ポイント、5年生で19.3ポイント低い。 ・問題形式では、記述式の正答率が、4年生の国語と算数、5年生ではどの教科でも市の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・どの教科においても、問題を解く時間が十分でなかった児童が、市の平均と比べて多い。 ・記述式の問題に関しては、無解答の割合も高いことから、「書くこと」に対しての意識的な課題も考えられる。	・ふり返りを充実させる。 ・さまざまな条件で、自分の考えを書く機会を設ける。	・授業や行事でのふり返りの際には、いくつかの観点を提示し、多くの視点から自分の考えを書けるようにしたり、定型文を基にして書く練習をしたりし、段階を追って書く力をつけられるようにする。 ・字数や段落構成などを指定して書く機会を設け、条件に合わせて自分の考えを書けるようにしていく。